

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Tsuda-Machi-works 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 6日		～ 令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 25
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 6日		～ 令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの意見を積極的に受け入れ、挑戦する機会を増やすことで強みを増やし自己肯定感を高める療育をおこなっていること。	子どもの経験する機会を大人が奪わないように見守りを大切にしている。	小中学生での異年齢ならではの育ちが子ども達の力になっていることが多い為、異年齢ならではの活動の時間を増やす。
2	自分の身体を自分が思うように動かせるようになることを目的にコーディネーショントレーニングを行っているが、「聞く力」「見る力」「行動する力」が格段に育っている。	子どもたちそれぞれの発達がある為、職員が正解を伝えない。継続すると子ども自身がしらないあいだに体の使い方がわかり動きやすさを知る。	戸外や体育館へでかけるなど広い場所での活動で変化を与える。
3	地域の小中学校と近く、徒歩で来所することで行動範囲を広くしたり時間の感覚の向上に繋がっている。自分で来所することで気分が落ち着く利用者様も多くいる。	小学校5年生になると保護者様や学校担任と時期が適当かを話し合い実施する。	以前実施していたが、現在していないバス通学の支援。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者対応について同じ時間にお迎えに来ていただけることも多い為、お待たせすることが多い。また、玄関も狭い為面談室を解放している。	玄関が狭いこともあり、大人が数人のところに対応できる職員の数も限られている。(3人までとしている)	お子さまの様子を適切に早くお伝えできるスキル。
2	送迎がなく、お会いできる機会が少ない保護者様への療育内容の説明。	ファイルに記入したり、電話にてお伝えしているがお互いの表情が見えないことで保護者様に不安を抱かせていることもあるのではと改善が必要なのではと考えている。	現在は、保護者様の希望により実施していることが多いが利用者の負担になることがないように、個別で送迎を継続していただけるようお願いする。毎利用時が難しい保護者様には月1度の送迎をお願いし、利用者様の様子をしっかりとお伝えし、家庭や学校での様子も共有していただく。
3			